

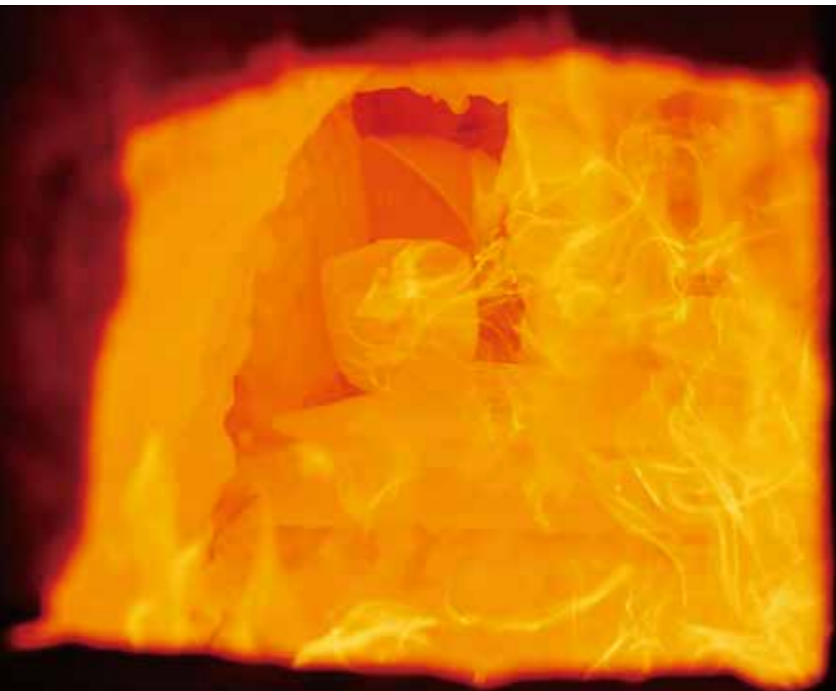


陶芸展 亮太郎 加藤 第四回



第四回
加藤亮太郎
陶芸展

表紙 志野水指 Φ205×h170



加藤亮太郎 陶歴

- 一九九七年 京都精華大学美術学部陶芸科卒
- 一九九九年 京都市立芸術大学大学院 陶磁器専攻修了
- 二〇〇〇年 家業の幸兵衛窯に入る
- 二〇〇七年 個展(松坂屋名古屋店) '10、'13、'16
- 二〇〇八年 個展(画廊光芳堂、岐阜) '12
- 二〇〇九年 個展(大阪高島屋) '12、'15
- 二〇一〇年 個展(しづや黒田陶苑) '11、'13、'15
- 二〇一一年 個展(アートサロン光玄、名古屋) '14
- 二〇一二年 個展(日本橋高島屋) '15
- 越後妻有アートトリエンナーレ ミノセラミックスナウ
- (岐阜県現代陶芸美術館)
- 二〇一四年 第九回パラミタ陶芸大賞展 Ten Japanese Pottery (Goldmark Gallery, UK)
- 二〇一五年 和美茶展(梁清流館、京都)
- 二〇一六年 幸兵衛窯歴代展(古川美術館、名古屋)

第4回 加藤亮太郎 陶芸展

会場: 松坂屋名古屋店 本館八階美術画廊

時間 10時~19時30分(最終日は16時閉廊)

住所 〒460-8430 名古屋市中区栄3-16-1

電話 052-264-3383直通

作家は期間中在廊いたします

6 / 22 → 28
(水) (火)

志野茶盃 Φ140×h95

窯を焚き上げ、終熄の朝。

新緑が眩しい。

炎と闘い、対話し、交合った。

やはり焼くことは、

私にとっての表現方法だ。

やきものらしい、

本物のやきものを焼きたい。

四月と六月の穴窯で焚いた

吾子たちをご披露いたします。

ご高覧をお願い申し上げます。

—— 加藤亮太郎





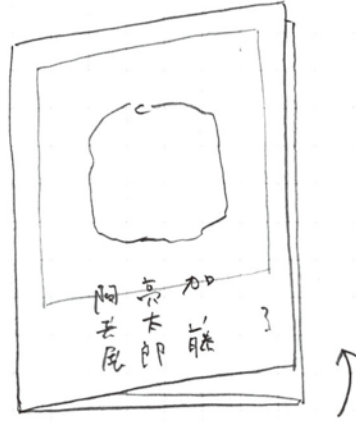
椿手茶盤 $\Phi 110 \times h90$



引出黒茶盤 $\Phi 130 \times h100$

卷3の折

表紙



用<4

